

コロナ禍の世界

横浜市駐在員リポート

18

「Patience(忍耐)」を、カーネギーホールは呼び掛けている。ホールを象徴するジョークがある。有名な音楽家がホールへの道順を聞かれ、「Practice(練習)」と返す。音楽界最高の舞台

「ニューヨークは終わった」とささやかれ始めた。同市に本社を置くデパート「センチュリー21」が経営破綻した。在宅勤務の長期化が見込まれ、マンハッタンから郊外への人の流出が止まらない。市警察が市民

に安全対策を緊急告知するほど、銃発砲や殺人などの犯罪が増えた。その一方、ゆっくりだが着実に回復している。ショッピングモールは入場規制を50%に緩和して営業を始めた。レストランも25%の来店制限に加え、利用者に検温、連絡先提出、マスク着用を義務付けて再開した。美術館、博物館は順次、開館。公立学校も対面とオ

ンラインでの授業を組み合わせ、新学期を迎えた。「ニューヨークは立ち直りが早く、タフだ。ニューヨークは終わってはいない。必ず、さらに強靱に回復する」。州知事はそう言う。今はそれまで、忍耐の時だ。(横浜市国際局グローバルネットワーク担当理事/米州事務所長・関山 誠)

日常の回復へ忍耐の時

に挑む道筋を明かしたというオチだ。Patienceはジョークの自前のパロディで、現状へのメッセージとしてもふさわしい。9月の新学年スタートから年末のホリデーシーズンに向け、普段なら人も街も心躍る時期だ。今年は大統領選挙もある。11月をヤマ場に活気を帯びる季節だが、この先も当然、これまでと同様、我慢が必要だ。

ニューヨーク



「忍耐、忍耐、忍耐」。そう呼び掛けるカーネギーホール玄関前に張り出されたポスター = 9月11日、マンハッタン